

2/16 第8回四国中央市首都圏交流会


東京都で本市ゆかりの企業が集い、情報共有を図ることなどを目的とし開催されました。本市出身の大西可奈子さん（国立研究開発法人情報通信研究機構）が、「AI活用に必要なただ一つのこと」と題し、AI活用のうえで重要なことや、AIと人との関わり方など、専門的な分野でありながらもわかりやすく講演しました。

3/18 ユーフェスタ 2018


土居文化会館（ユーホール）で毎年開かれており、今年も市内外で活動するアーティストやグループ8組が、ハーモニカやフラダンス、クラシックギターなど、日頃の練習の成果を披露しました。ゲストとして愛媛県出身の双子シンガーソングライター「アジアツインズ光と風 Hi-Fu」も出演し、会場を大いに盛り上げました。

3/22 第31回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会出場報告会


川の江南中学校2年の石川ゆりあさんが県代表選手として全国大会へ出場することを市長に報告しました。石川さんは9月と11月に行われた代表選手選考会で見事合格し、県代表選手に選ばれました。「自分のやれることを、しっかり声を出して頑張ってきます」と力強く抱負を語りました。

3/25 市長杯朝日 S-1 グランプリ 2018


土居文化会館（ユーホール）で開催され、アマチュア棋士171人が一般の部3クラス、中学生以下の部4クラスに分かれて熱戦を繰り広げました。午後からは、プロ棋士の北浜健介8段、長谷川優貴女流2段による指導対局も行われました。

3/29 三島柔道会第38回全国少年柔道大会(団体戦) 出場報告会


三島柔道会の植木聖恩さん、植木蓮恩さん、谷吹希さん、谷こはるさん、高橋楓芽さんの5人が県予選で優勝し、全国大会に出場することを市長に報告しました。毎年5月5日に東京都の講道館で行われ、団体日本一を決める本大会に、三島柔道会としては37年ぶりの出場となります。

4/1 塩塚高原山焼き


美しいススキが広がる塩塚高原は毎年多くの観光客が訪れており、山焼きはその景観を保護するために行われています。今年は晴天が続いた後での実施だったため、山頂から市職員の担当者が火入れを行った後は、地元消防団に見守られる中、順調に燃え広がり、近年にないほどのきれいな仕上がりとりました。



4/1 疏水感謝祭



上柏町の戸川公園で、銅山川疏水の恵みに感謝するとともに、先人たちの遺徳をしのび、後世につなげていこうと上柏公益会(片岡晶会長)が毎年開催しており、今年で46回目になります。好天に恵まれ、訪れた大勢の家族連れたちが満開の桜の下でもち投げなどを楽しみ、水の恵みへの感謝の思いを新たにしていました。

4/3 補助教材本「農業とわたしたちの暮らし」を贈呈



うま農業協同組合(篠原一志代表理事組合長)の近藤善春常務理事(写真左)から、市内の小学5年生児童752人に寄贈され、代表して上分小学校の横井裕次校長(写真右)が受け取りました。これはJAバンクが、子どもたちが農業や食、自然環境への理解を深めるきっかけとなるよう願いを込めて行っているものです。

4/4 新入生への防犯下敷き贈呈式



四国中央警察署で、新入学児童の健やかな成長と事故のない学校生活を願い、同署と四国中央地区防犯協会から防犯下敷きが贈られました。新入学児童代表の妻鳥小学校の石川心結さんと秦泉寺唯愛さんは、元気よくお礼の言葉を述べました。この下敷きは小学校を通じ、同署管内の新入学児童691人に贈られます。

4/8 桜まつり



城山公園、向山公園、三島公園で桜まつりが開催されました。今年は例年より桜が早く咲き、残念ながら桜を楽しむことはできませんでしたが、天候には恵まれ多くの参加者でにぎわいました。参加者たちは、もち投げやお茶席、演奏や演技、子ども相撲大会など、たくさんのイベントを楽しんでいました。

先月、新宮小中学校の入学式があり、私自身の学校に対する思い入れがあつて、出席させていた。新宮地区外の子ども、中学生7人と小学生12人が出席していた。小中一貫校であるため、中学1年生は7年生になる。全校生のほぼ3割から4割が地区外の児童生徒である。

防災の視点から移転を余儀なくされたが、移転新築する費用と教育を受ける子弟の人数を考えると、大局的にどう判断したらいいのか悩んだ時期があつた。新宮から学校をなくするわけにはいかない。学校は過疎化の防波堤にはならないし、そういう発想ではいけないと私は思っていた。あくまで、地区住民の子弟が中心にはなるものの、希望をとって地区外からも通学してもらおうという、現在の形でいこうと決断したのだが、果たしてうまくいくのか、自信はなかつた。

みんなが必死の努力をしてくれて、当初の方向性は成功していると思うが、ただ、新宮地区のみならずと縁のある子弟をできる限り入学させて頂いて、もっともっと、学校の行事やイベントが地区住民のみならずの楽しみになり、活力源となればいいのにな...と願っている。



「小規模特認校新宮小中学校」

市長のひとりごと



四国中央市長
篠原 実